

卒業制作

意匠コース

遊びと学びの Book road

～公園につながる道～

2年B組 27番

水口 琴菜

遊びと学びの Book road

～公園につながる道～



卒業設計に取り組むために、私が生まれ育った高槻市について調べてみた。その結果、近年都市計画が進んでおり、その中で建物の借地として公園の一部がなくなる恐れがあることから子供たちにとっての遊びの場が少しずつなくなっていると感じる。また、子供たちもインターネット等の情報メディアの発達・普及や子どもの環境の変化が進んでいる中、友達同士で一緒に遊ぶ環境も少なくなっていると感じた。そこで、遊びと学びが図書館を通して同化する設計を計画することで、現在の高槻市の都市計画の課題に少しでも支障することができるのではないかと考える。



前面道路側入口

公園側入口

01 企画提案の背景

高槻市の取り組みとして、将棋文化を次の100年に継承する大規模プロジェクトが進行中です。JR高槻駅の近くに将棋会館の建設が進んでいます。さらに、警察署が計画地の近くに建設予定で高槻市の都市計画マスタープランの目標に「にぎわいと活力のある都市に近づいており、その支援をしたい」と思っています。

・私が幼い頃から計画敷地に建築物が建たないから、この卒業設計の機会を使って新しい公共施設を設計したいと思ったから。公共施設の種類のなかでも図書館の設計を考えており、私が子供の頃、高槻市のメインの中央図書館は、市役所の中にあることで入りずらく回数に行くことがなかったから、この土地を使って設計したいと思います。



前面道路から撮った現状写真

公園側から撮った現状写真

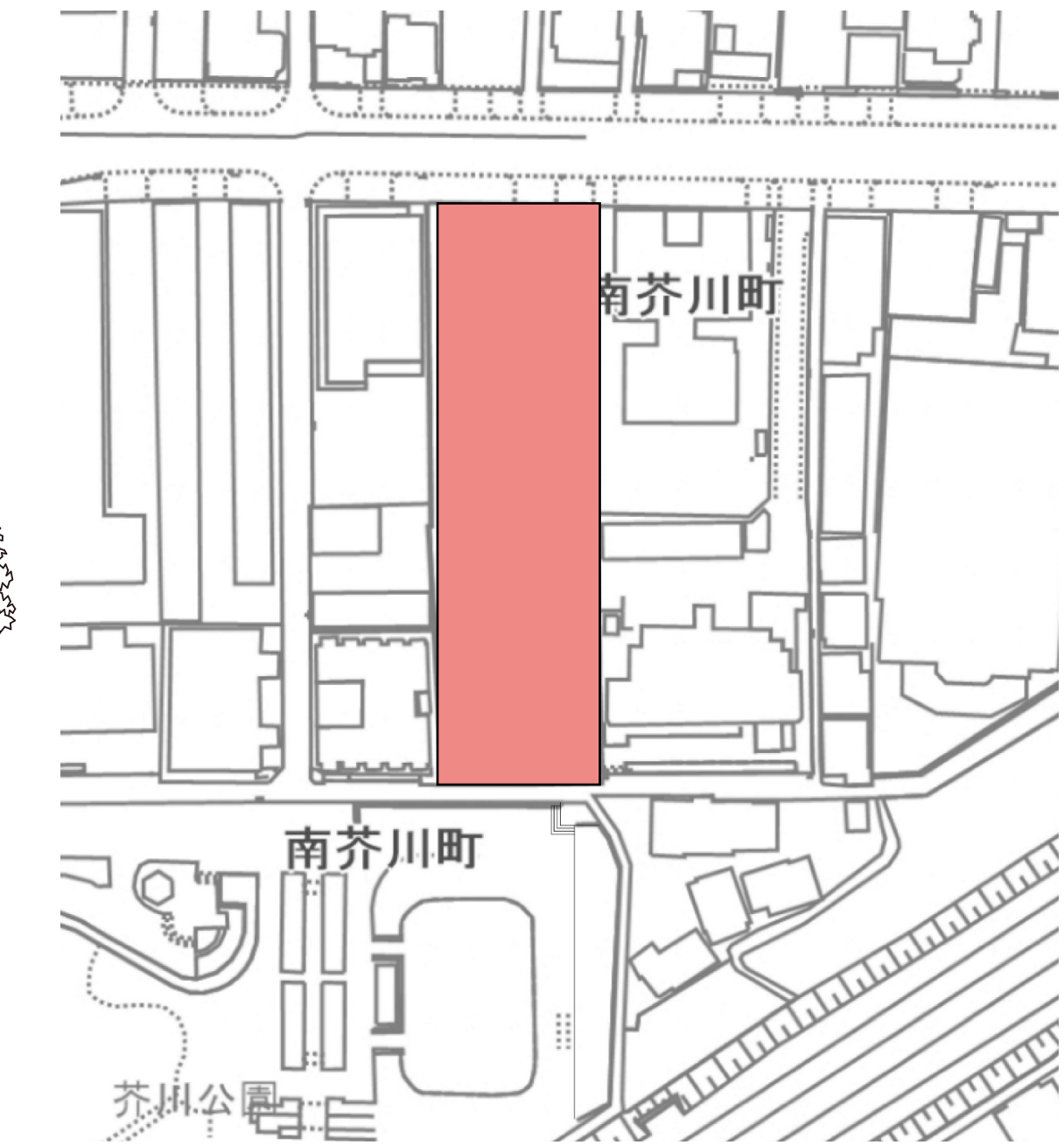
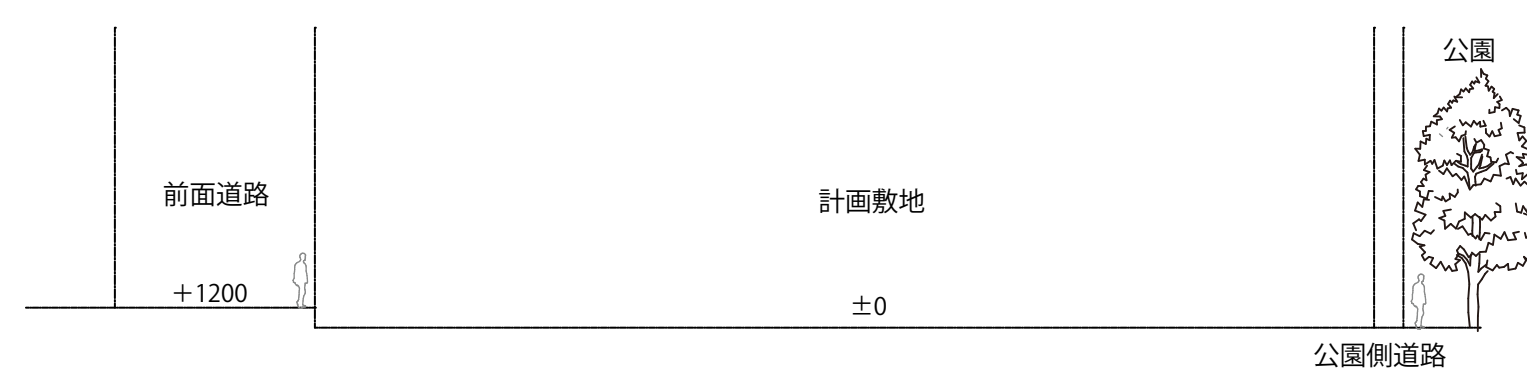
02 計画敷地

住所 大阪府高槻市南芥川町7丁目

敷地面積 2258㎡

用途地域 第2種住居地域
建築率 60% 容積率 200%
準防火地域
生産緑地地区

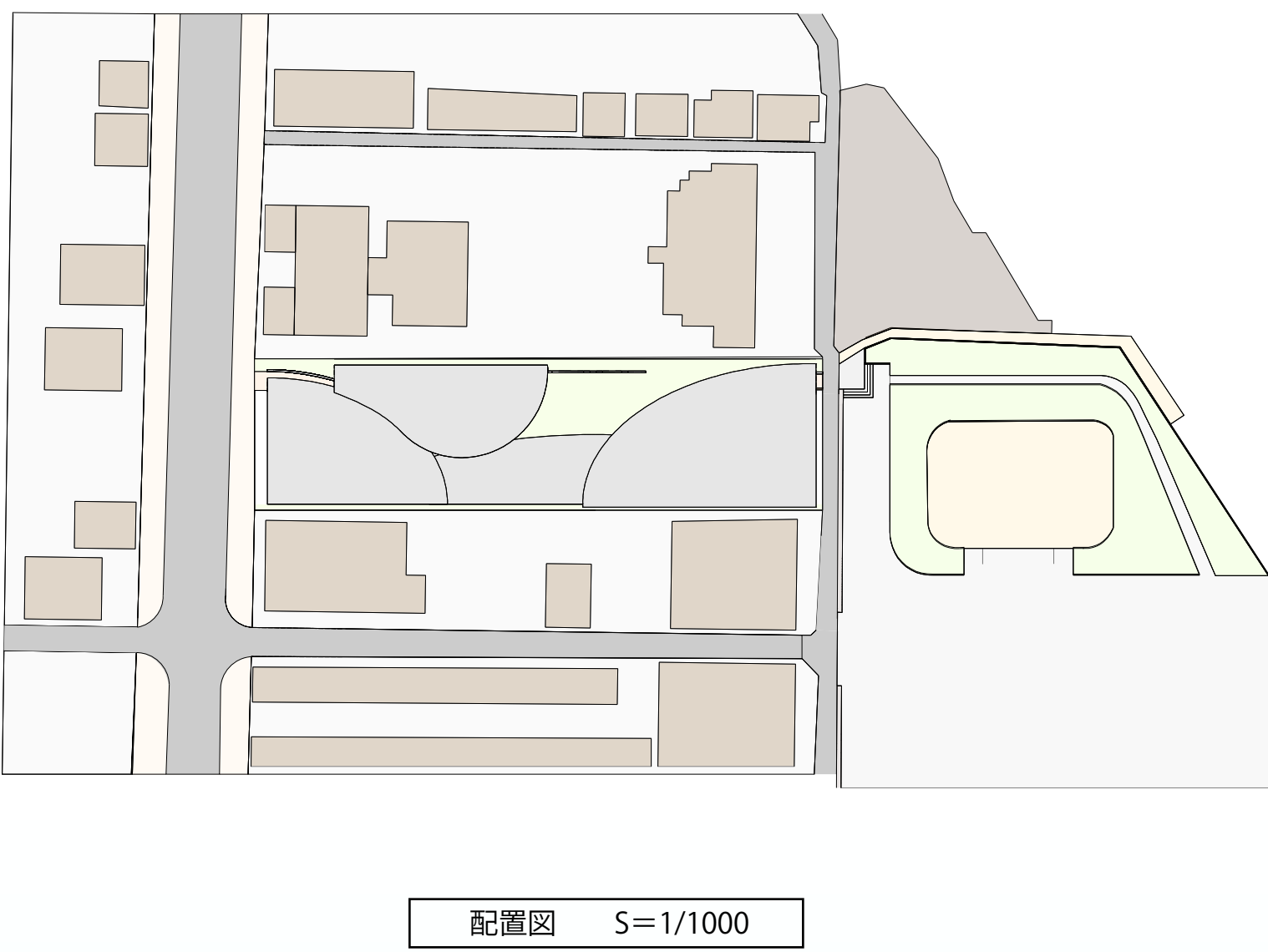
通勤などで人通りが多い
5時過ぎくらいに学生が自転車、裸で通っている。
小学生くらいの子供たちが公園に遊びに来るときに通っていた。
前面道路と敷地に高さがある。
公園の右側の出口をでたら目の前に敷地がある。
前面道路側は人通りが多いが、公園側の道は、人通りが少なく住人の人が通っている。
昼頃には南から敷地全体に日差しが入っている。
休日は車通りが多い。
JRの電車から見える位置にある。



03 調査

高槻市の取り組み

現在高槻市には、都市計画マスタープランが計画されており誰もが住みやすきを実感できる快適な都市、にぎわいと活力を実感できる魅力あふれる都市、安全・安心を実感できる強靭な都市の3つのありたい姿を掲げ「住みたい・住み続けたい・防犯したい」と思われる持続可能な都市をめざしている。
現在その計画に向けて高槻駅を中心に将棋会館や警察署などが建設されている。



配置図 S=1/1000

子ども読書活動に関する調査

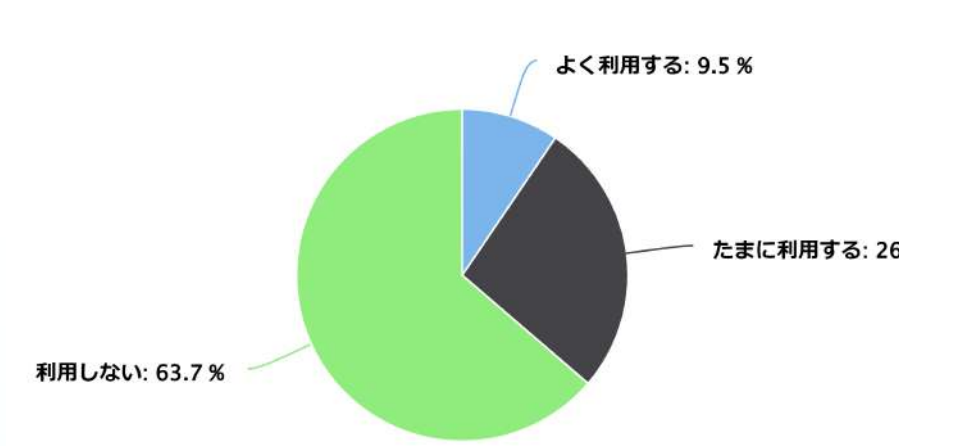
【児童・生徒】	調査項目	小学5年生 (小学6年生)	中学2年生 (中学3年生)	高校2年生 (高校3年生)
① 読書をする理由 (自由記述)	内容を楽しく	49%(74%)	49%(80%)	49%(77%)
	知らないことを知る	62%(→)	47%(46%)	50%(46%)
	気分転換	53%(39%)	知らないことを知る 44%(→)	知らないことを知る 36%(→)
	学校図書館	63%(60%)	66%(79%)	64%(75%)
② 本の読む場所 (自由記述)	家	55%(64%)	32%(42%)	23%(34%)
	学校図書館	32%(52%)	31%(25%)	31%(34%)
	好きなジャンル	64%(64%)	好きなジャンル 64%(63%)	好きなジャンル 56%(24%)
	マンガや漫画の原作	49%(38%)	マンガや漫画の原作 45%(43%)	SNSで紹介 40%(→)
③ 本の好み (自由記述)	マンガや漫画の原作	31%(27%)	マンガや漫画の原作 39%(37%)	好きな作家 37%(61%)
	読みたい本がない	53%(37%)	読みたい本がない 49%(48%)	時間がない 48%(→)
	読書が好きではない	45%(→)	読むのがめんどろ 42%(→)	読みたい本がない 39%(38%)
	時間がない	33%(→)	時間がない 31%(→)	読むのがめんどろ 36%(→)
④ 読書しない理由 (自由記述)	ゲーム	69%(47%)	ゲーム 69%(44%)	インターネット等 51%(27%)
	読書が好きだが	動画や動画 44%(26%)	インターネット等 63%(40%)	動画や動画 50%(25%)
	本を読んでいる人が少ない	44%(33%)	動画や動画 57%(49%)	動画や動画 40%(37%)
	漫画・雑誌	44%(33%)		

高槻市の図書館の現状

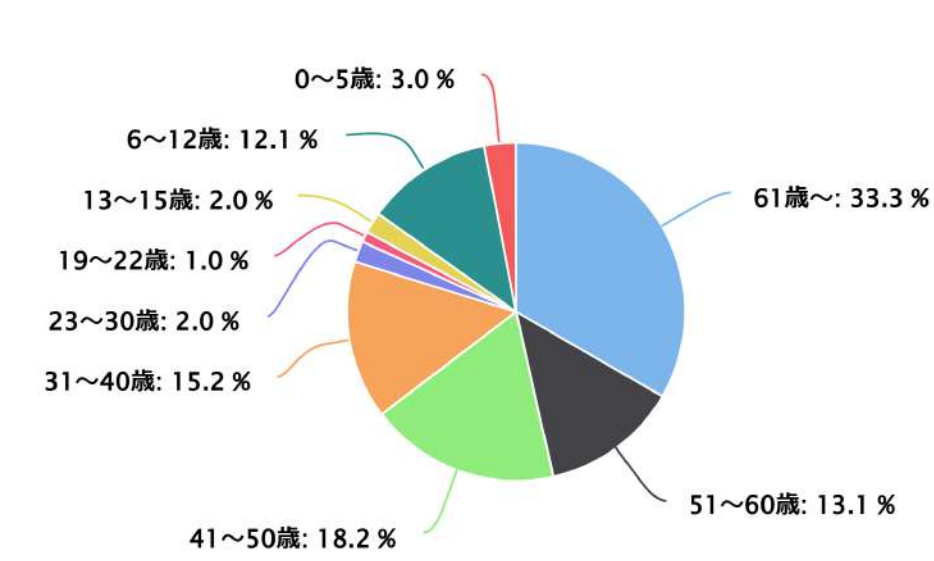
高槻市のアンケートで図書館利用者の利用しない人の割合が60%以上占めており利用する人でも10%を切っている。また、利用者の年齢割合も61歳以上が三割を占めている。その原因として考えられるのは、インターネットです。

子供たちが本を読まない理由としては、塾や部活もありますが半分以上はゲームやインターネットの利用のため。インターネット等の情報メディアの発達・普及や子どもの環境の変化。さらには幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもの「読書はなれ」が指摘されている。だが現在の図書館は、「児童書コーナーを設けて子どもが安心して静かに本を読めるが、乳幼児がいる親は他の利用者の迷惑になるため読み聞かせができない」との意見もある。なので、乳幼児を図書館に連れて行くことに躊躇する親も多い。そのため、親子がともに読書に親しめるということができないという現状となっている。

図書館利用者の有無

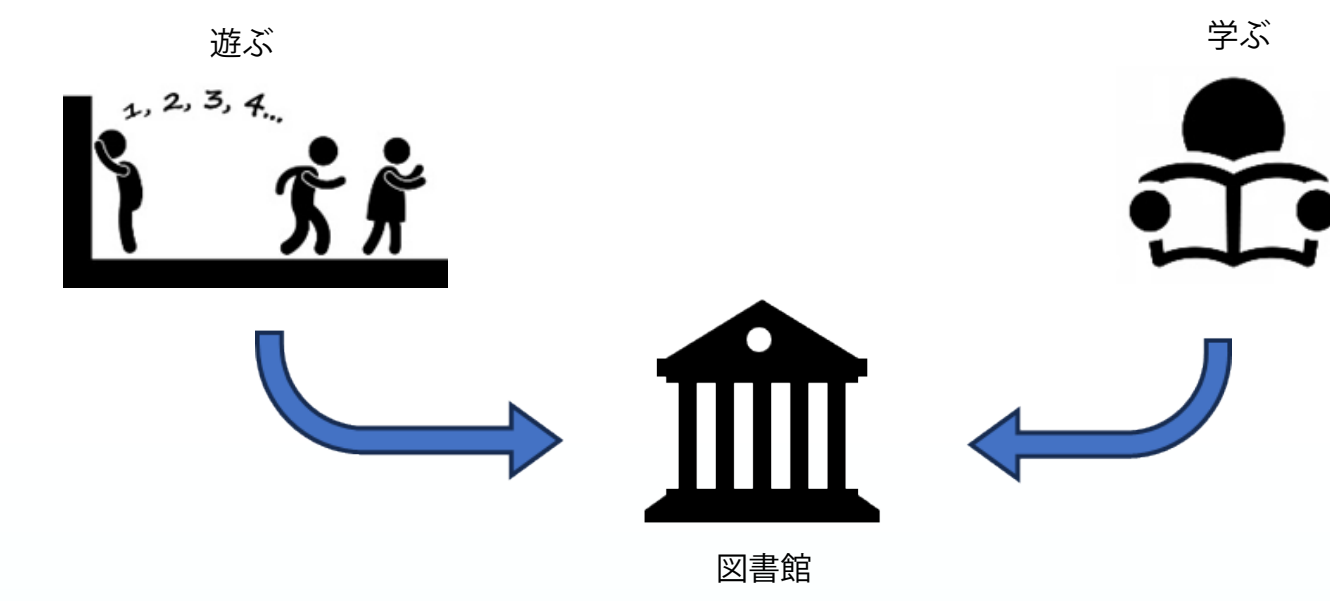


中央図書館利用者年齢割合

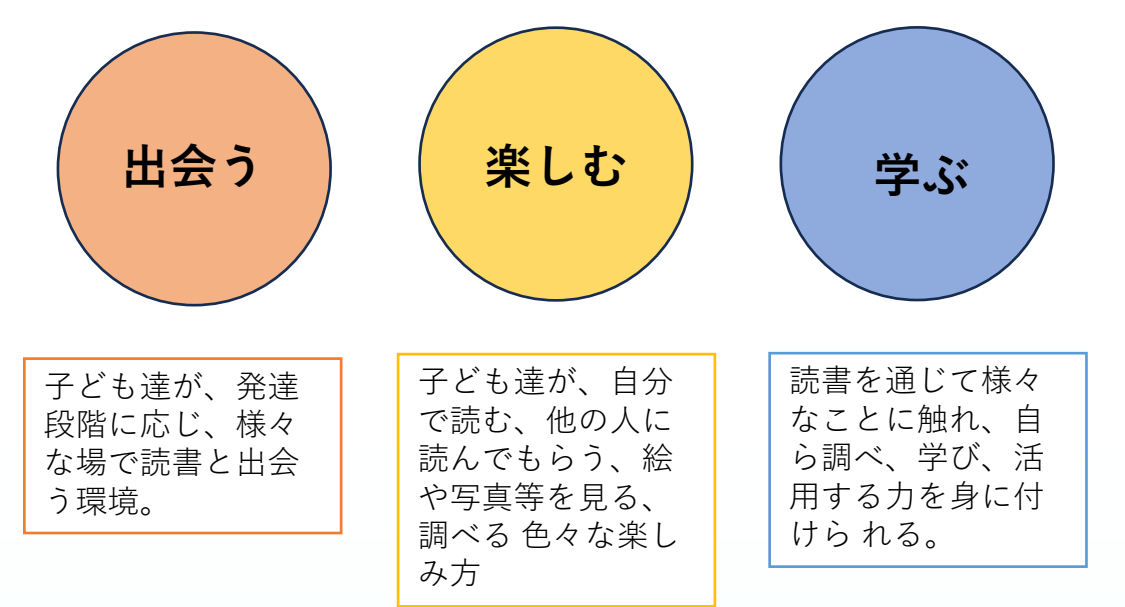


04 提案

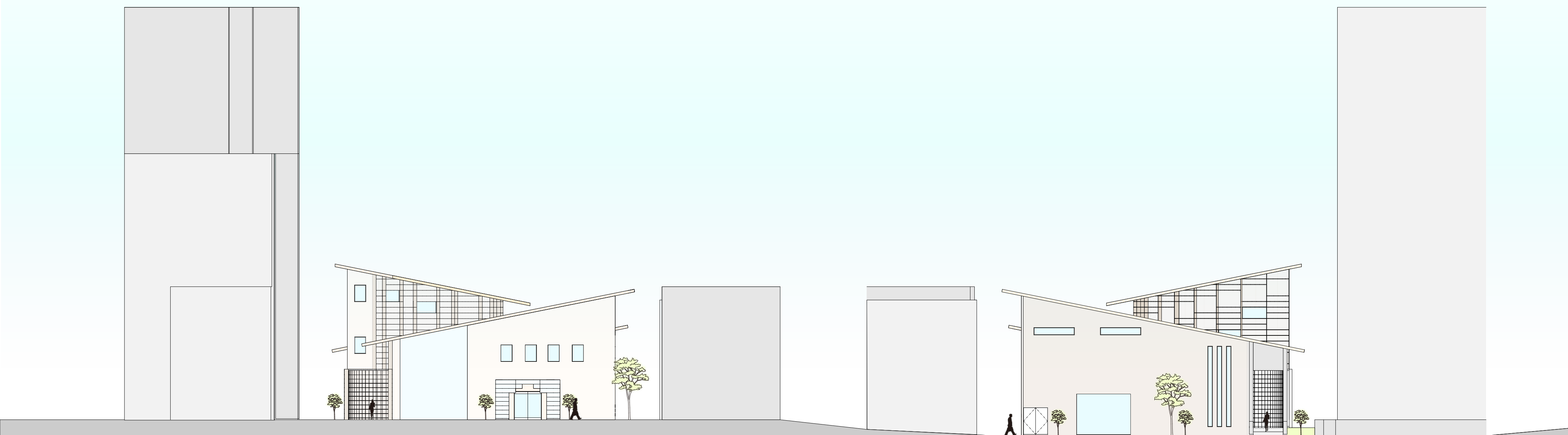
私の提案は、子供が遊びと学びが読書ができる空間を考えている。子どもの読書活動は、読書と遊びは分離されるものではないと考えており、子供にとっては、遊びも学びの一つと考えているからだ。
今は、インターネットでなんでもできる世界になっているため、ひとつの小さな端末に数万点の本の内容を保存できる電子書籍は、たしかに場所を取らないという意味では重宝します。でも本の場合、大きさがあってこそその本というものがあります。そうした大型本の迫力には敵わないところがあります。それを現代の子供たちにも体感してほしいから。



読書することによって獲得する3

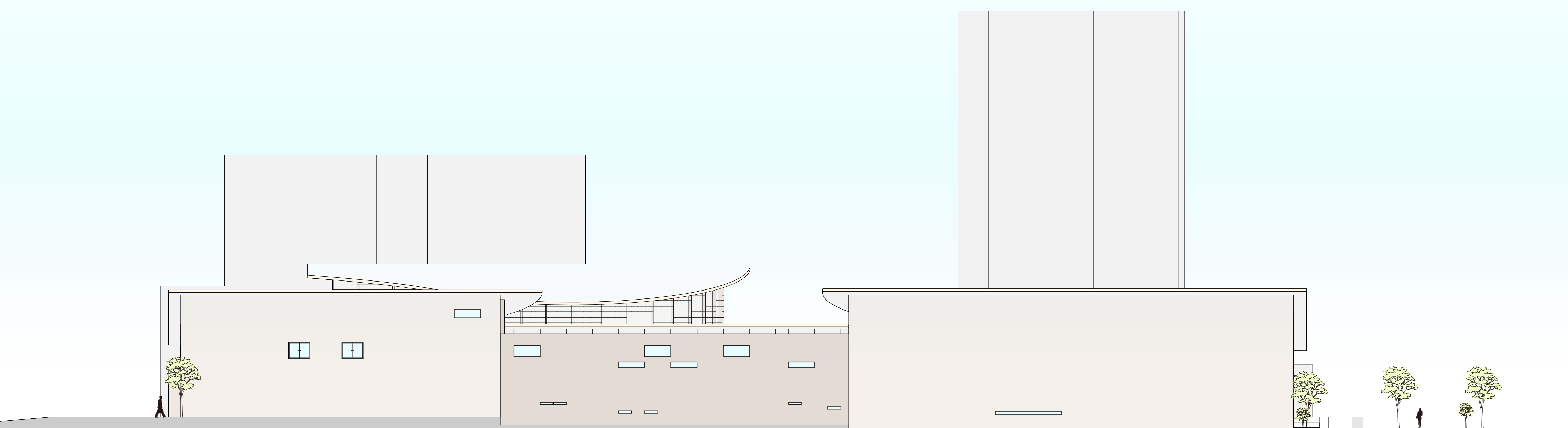


子ども達が、発達段階に応じ、様々な場で読書と出会う環境。
子ども達が、自分で読む、他の人に読んでもらう、絵や写真等を見る、調べる、色々な楽しみ方。
読書を通じて様々なことに触れ、自ら調べ、学び、活用する力を身に付けられる。



北立面図 S=1/200

南立面図 S=1/200



西立面図 S=1/200

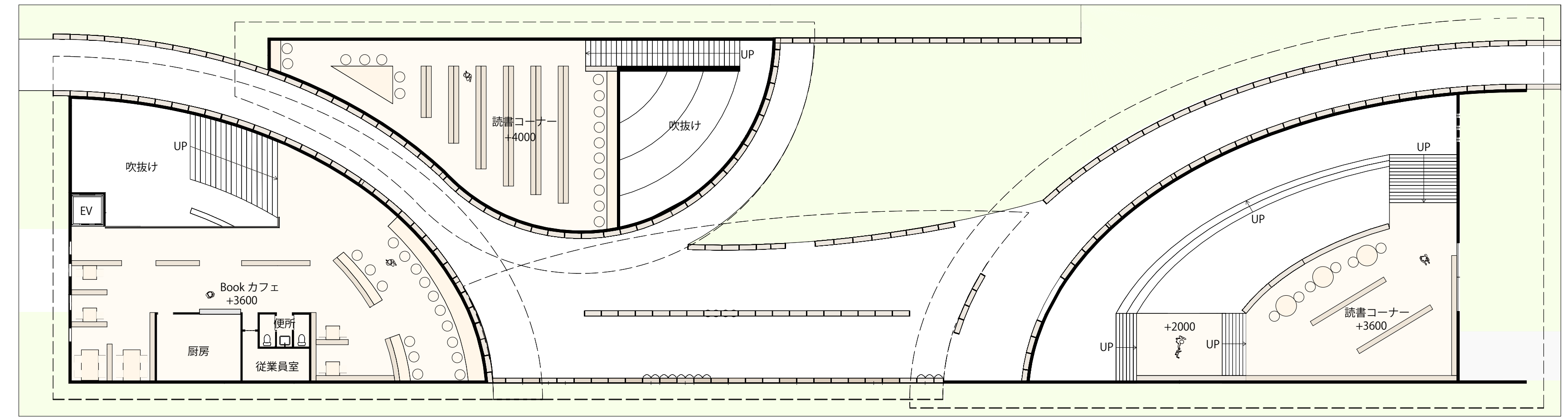
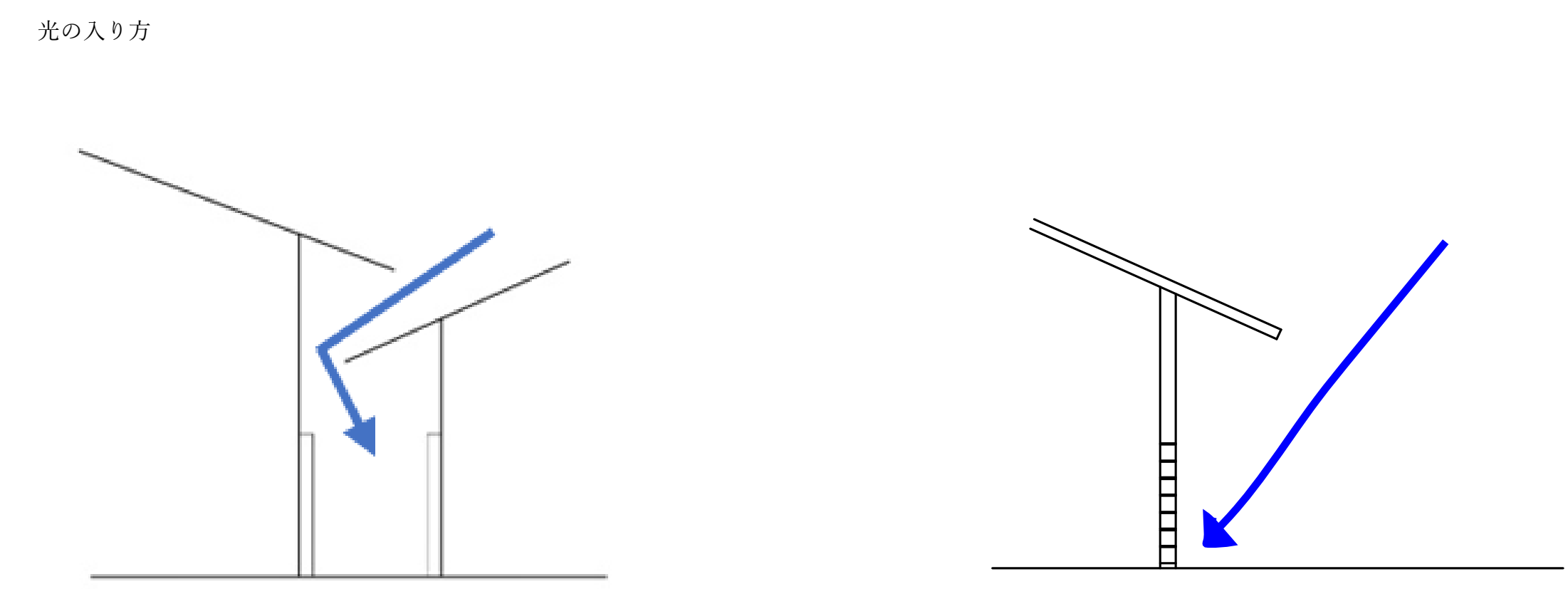
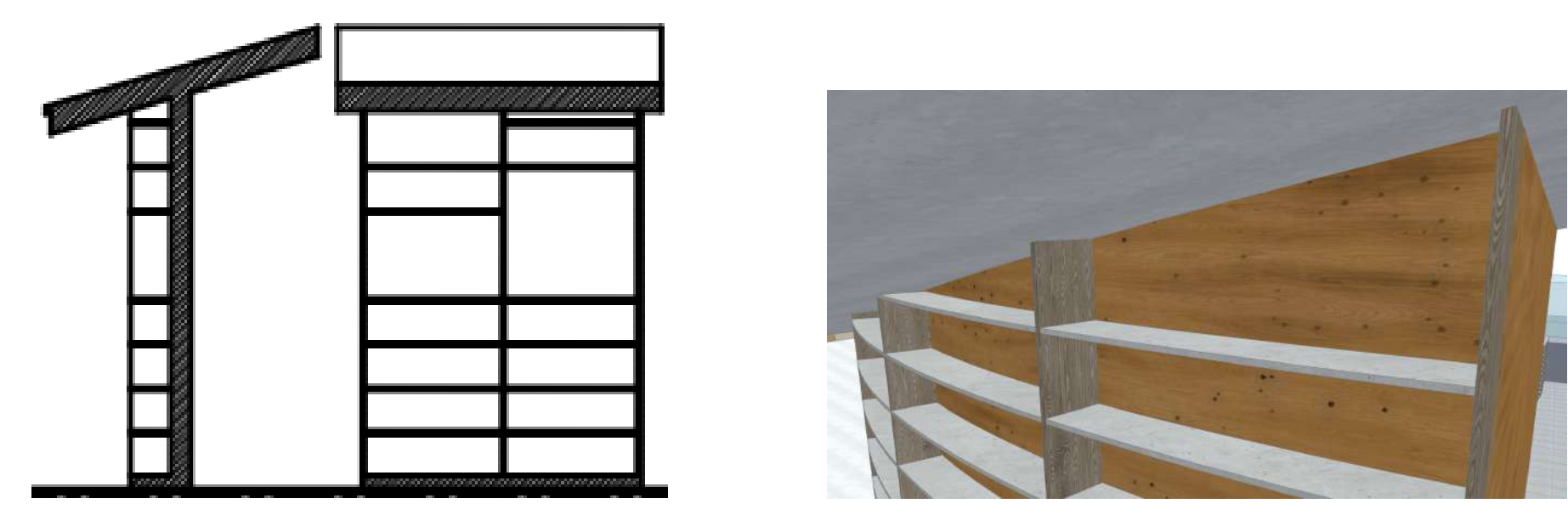
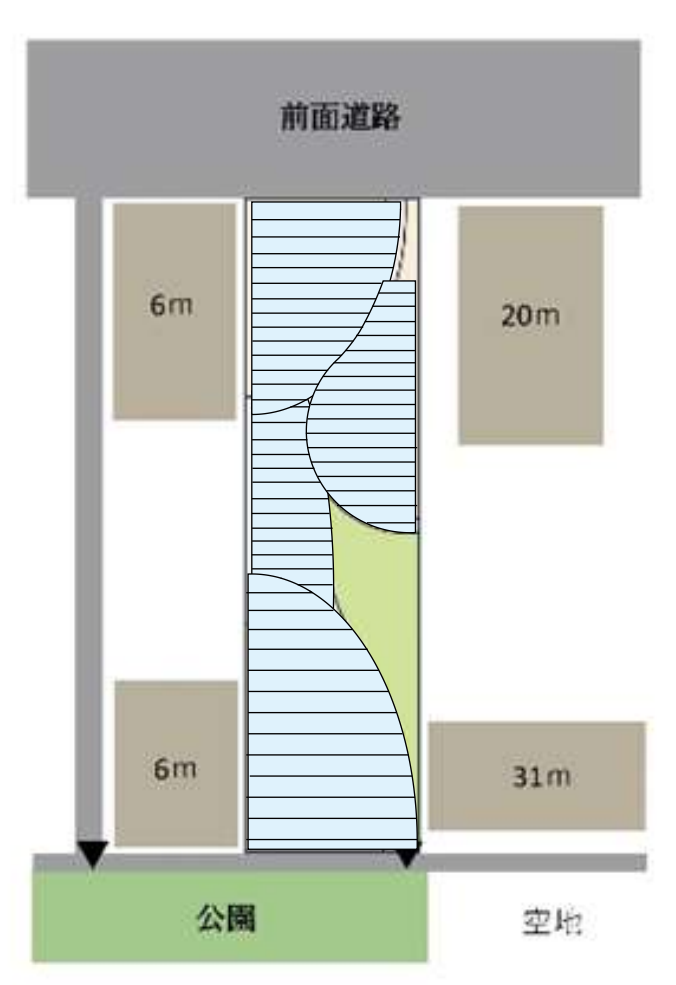
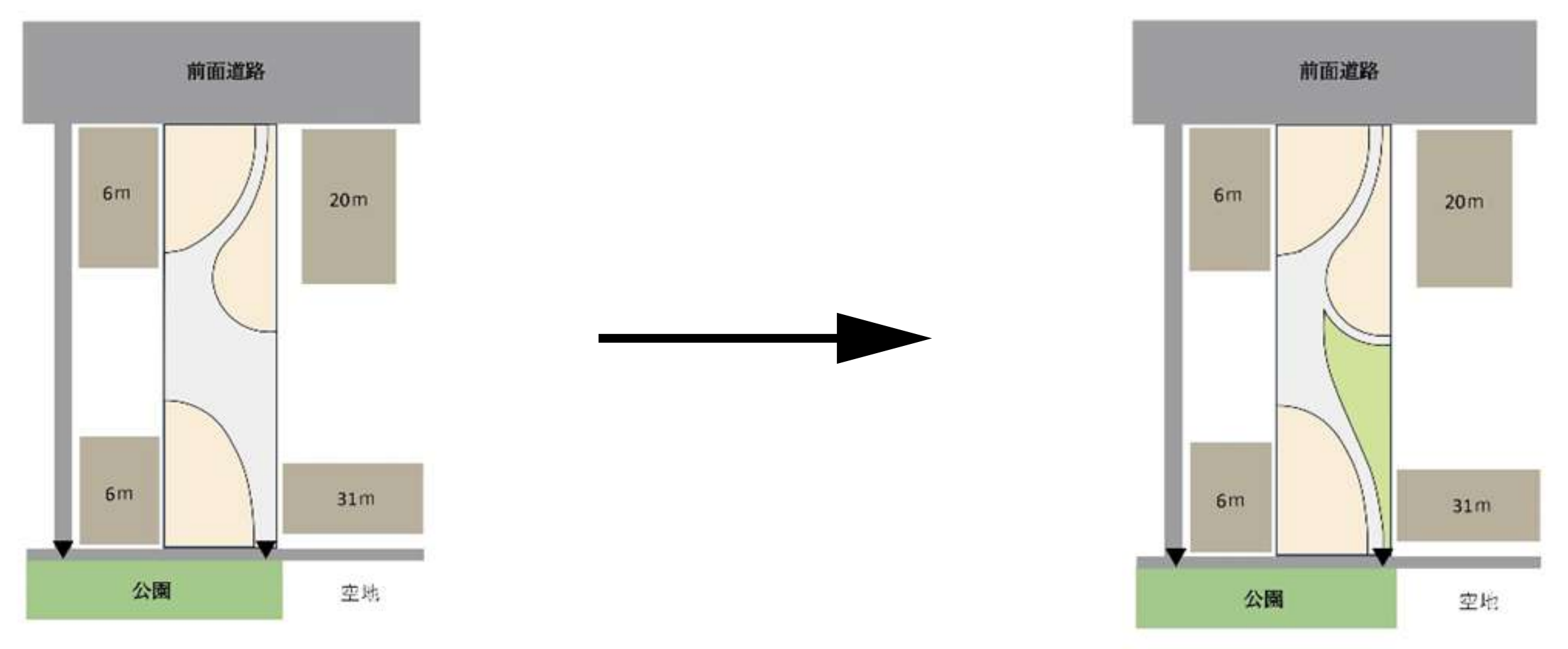
ターゲット
乳幼児連れ親子から
小学生、中学生の子供

道の計画
公園が側の入り口が計画敷地の正面にあることから公園の入り口とつながっていくような道考えた。
幼い子は、四角い形より丸い形や曲線状の形を好むことから道を曲線状につなげたような計画にしている。

広場の計画
敷地の周辺環境から公園とつながりをもった計画にするため曲線の道を崩さずに広場を設計する。公園側の道を進むと本棚の間から広場が見えるようになっている。

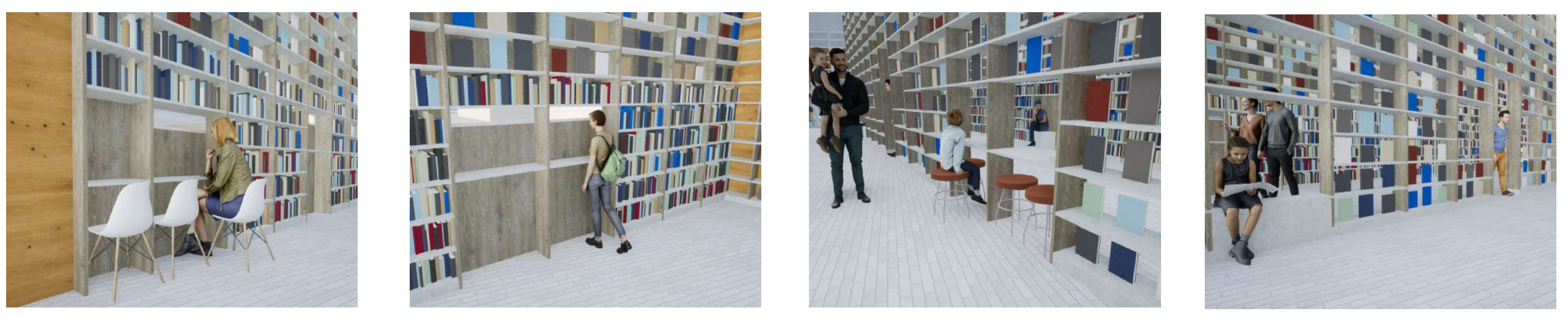
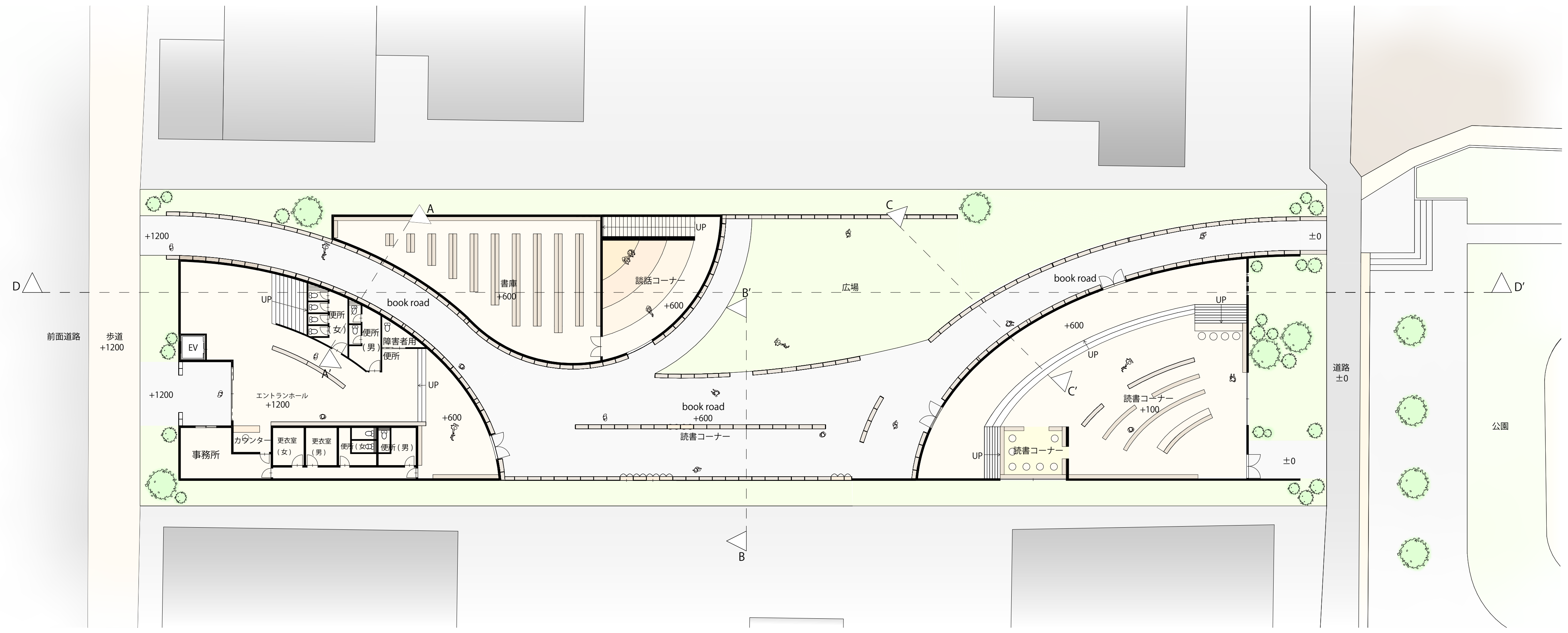
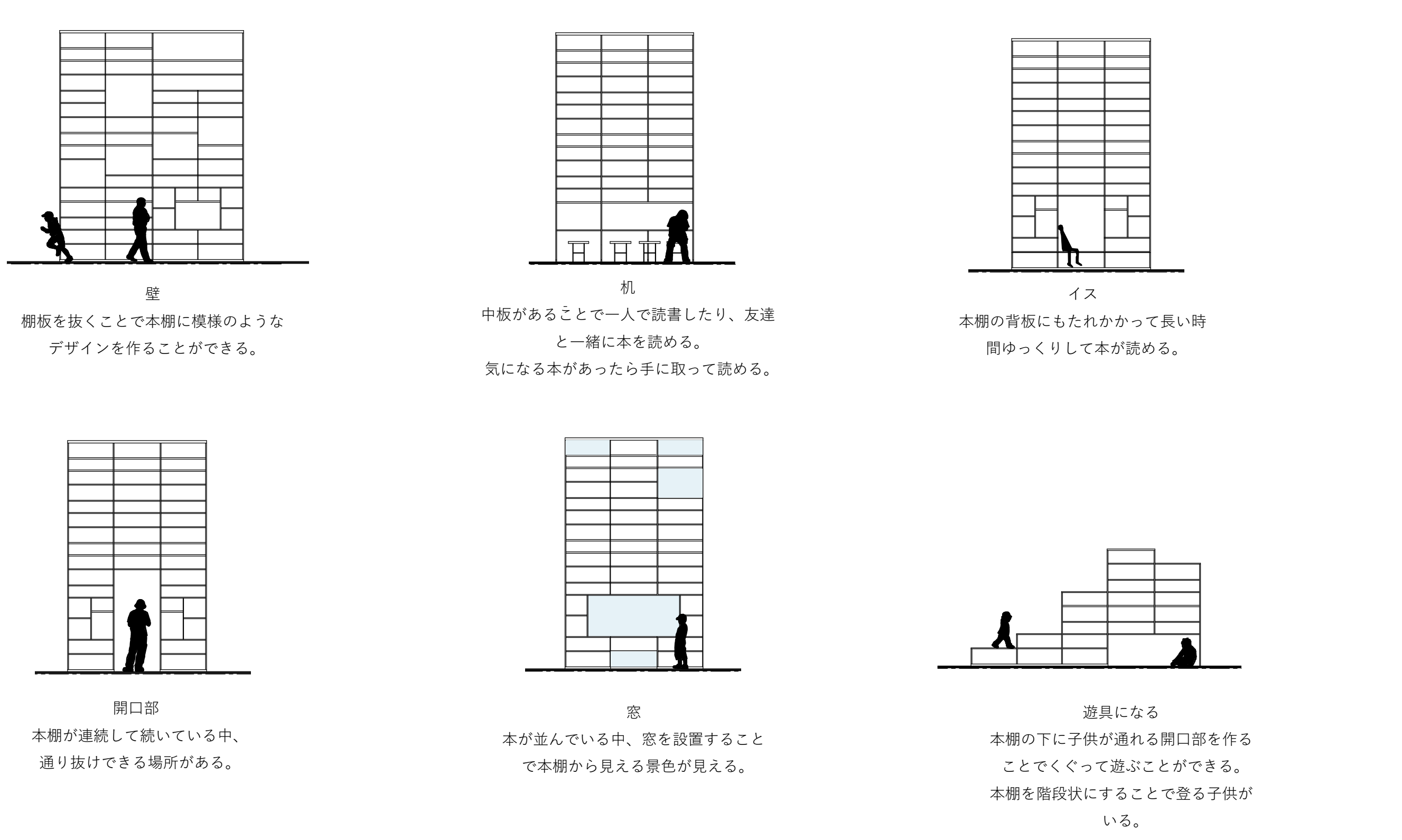
屋根の計画
book road の計画の中で、屋根をかけることで日光による本が痛みが少しでも緩和できるようにする。

本棚の構造
Book road に並んでいる本棚は家具だけの役割だけではなく、中板を壁の役割として屋根を支える構造になっている。

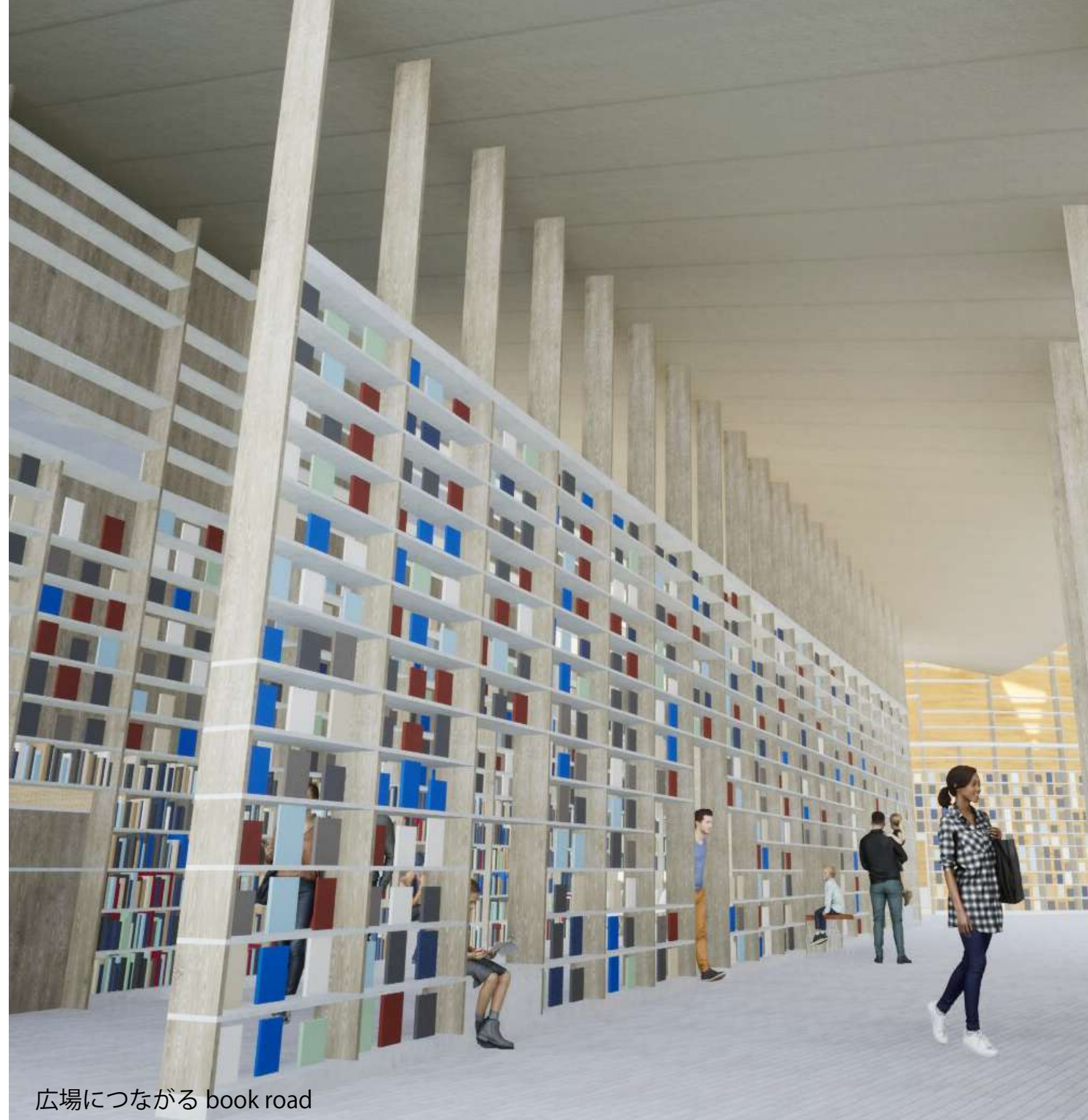


屋根の層のように重なることで光の入り方が反射して本へのダメージが抑えられる。
軒下を長くすることで光の入りを少なくする。

本棚の使い方
Book road に並んでいる本棚は、本の収納の役割だけではなく様々な使い方があり、そこで体験できる空間がある。



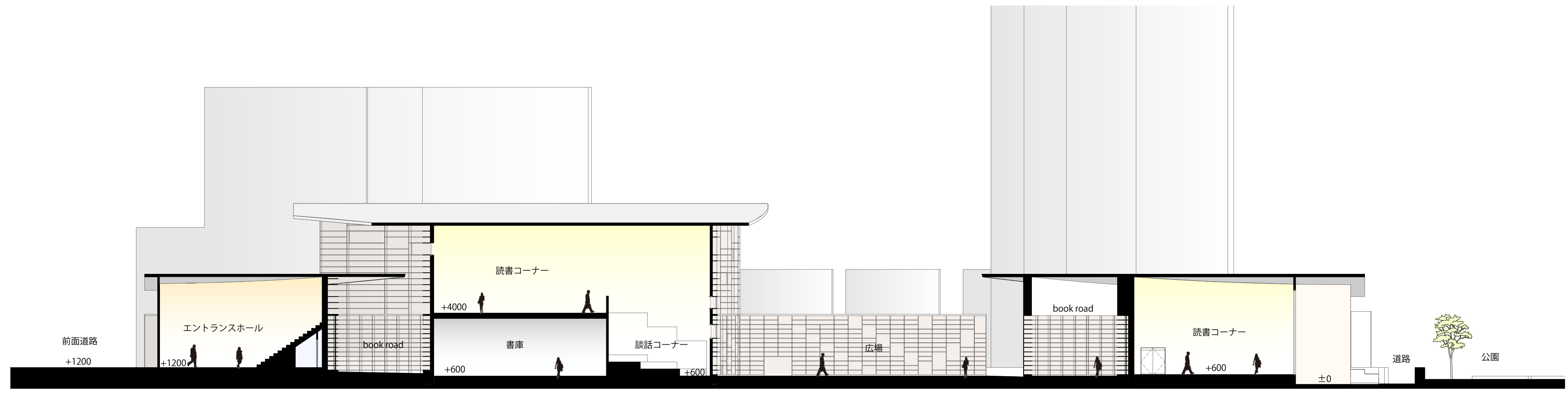
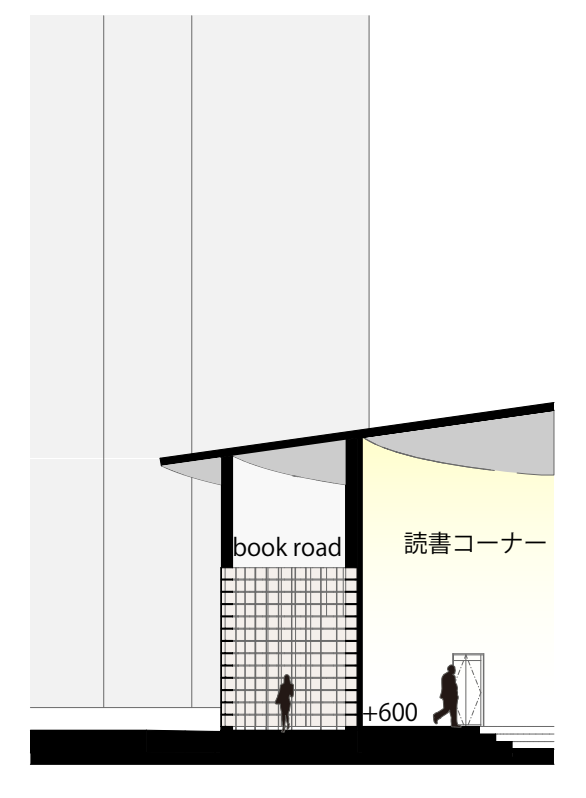
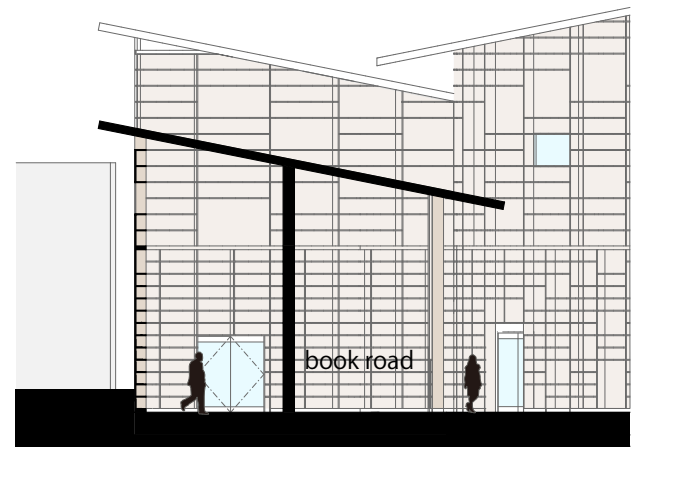
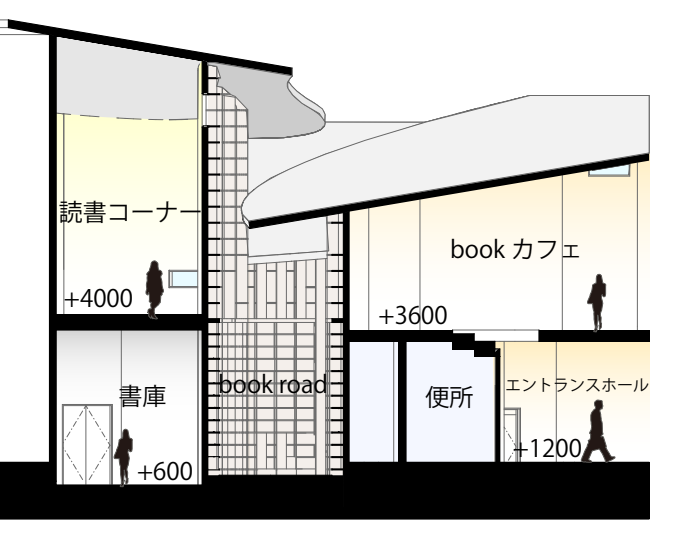
前面道路側 book road



広場につながる book road



公園側 book road



広場